

『颯とあつた』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に8回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。



夏休み特集

子どもたちは、暑い中でも元気です!!



《 生き物とのふれあい・西洋書道にチャレンジ・手作り楽器で演奏 》

帝京科学大学 夏休み親子教室

帝京科学大学(沖永荘八学長)と北都留地域教育推進連絡協議会(石井由己雄会長)は、7月20日(日)に第11回「夏休み親子教室」を、同大学上野原キャンパスを中心に開催しました。当日は5コース11講座に、幼児・児童87名、保護者68名、合計155名が参加。

帝京科学大学の花園先生・馬場先生・榎原先生が中心となり、各研究室に所属の学生および、AAE(動物介在教育研究会)等の学生サークルのスタッフが、各講座の運営にあたりました。「ハムスター・ウサギとのふれあいコーナー」「朝にしかできない昆虫観察」「カリグラフィー(西洋書道)によるオリジナルカードの作成」「『Let It Go』を英語で歌おう」「生活用品を使った手作り楽器」「超低温の世界・顕微鏡でのぞく微生物の世界」等、参加者は普段はなかなか体験できない各講座を楽しむとともに、親子の絆を深めていました。



《 はじめての『ものづくり』に興味津々 》

富士北稜高校 親子カルチャー教室

富士北稜高等学校(宮下仁校長)と南都留地域教育推進連絡協議会(小笠原幸夫会長)は、7月26日(土)に第12回「親子カルチャー教室」を開催しました。今年は昨年までの講座を一新し、「親子でお菓子クッキング」「手作りマウスを作ろう」「好きなかたちの植木鉢をつくろう」「身近なものを使って錬金術を体験しよう」の4つの講座に児童・保護者合わせて26組51名が参加。当日は28名の高校生のミニ先生の指導のもと、はじめての「ものづくり」を楽しむとともに、親子のコミュニケーションも深まったようです。



参加した児童からは「すごく難しかったけど、おもしろいものを作れたので楽しくて、うれしかったです」「ミニ先生がとてもやさしくて良かったです」との感想がありました。また、「とても有意義で良い講座でした。高校生ともふれあえてよい機会だと思います」「昨年も参加し、今年も楽しみにしていました。家庭ではなかなか出来ないことを体験したり教えていただけるのは、子供にとって興味が深まるよい機会になると思います」と、保護者からも大変好評でした。



《『ものづくり』の楽しさを体験》

谷村工業高校・都留興譲館高校

親子ものづくり教室

一方、谷村工業高等学校(手塚芳一校長)・都留興譲館高等学校(上小澤仁志校長)と南都留地域教育推進連絡協議会は、8月16日(土)に第11回「親子ものづくり教室」を開催しました。

今年度からは、都留興譲館高校が加わり、新たな「親子ものづくり教室」がスタートしました。同教室は例年人気が高く、今年も応募総数が募集人数を上回りました。抽選の結果、「ホバークラフ

トの製作」「電子制御ロボカーの製作」「メタルプレートの製作」「草木染めとフラワースタンドの製作」「木製プランターの製作」の各講座に22組44名が参加。23名の高校生のミニ先生も親切・丁寧に子どもたちを指導。難しい作業は保護者の助けを得ながら、みんな素晴らしい作品を仕上げました。参加した児童達は『ものづくり』のむずかしさやおもしろさを体験し、『ものづくり』への興味関心が高まったようです。



《八丈島・でっかい体験 2014》

フロンティア・アドベンチャー **やまなし少年海洋道中**

「心の豊かさやたくましさを育み、地域のリーダーとしての資質の向上」を目指し、第27回「やまなし少年海洋道中」が、実施されました。南北都留地区からは男女5名の中学生が参加し、大自然の中での野外活動生活を通して、友情・連帯・奉仕・

開拓・交流の精神を涵養。台風11号の影響で日程を1日短縮して、8月1日(金)から8日(金)の7泊8日に変更となりましたが、漁船クルージング・外洋の観察等の「洋上体験」、キャンプ生活・サバイバル踏破等の「自然体験」、八丈島の小中学生や地元の方々との「交流体験」、「自ら企画する体験」等を通して、日常生活では味わうことが出来ない、数え切れない貴重な体験をしました。

参加者は、「八丈島は湿気があり、とても暑かったが、地元の人達の温かさ、優しさに感激した」「不便な生活を通して、改めて自分は豊かな恵まれた環境で生活しているなど思った。今はお風呂に入るときも食事をするときも、感謝の気持ちをもてるようになった」と話していました。帰着時は深夜でしたが、疲れも見せずに無事帰ってきた様子に、出迎えの保護者のみなさんも一回りも二回りも大きく成長した我が子を誇らしげに感じたのではないのでしょうか。8月20日(水)に八ヶ岳少年自然の家において、事後研修と八丈島の小中学生との交流活動をもって、今年度の「やまなし海洋道中」は無事終了しました。来年も、多くの中学生が参加されるのを期待しています。



《約10年ぶりの実施》

富士吉田市 **ジュニア体験楽校**

8月5日(火)~6日(水)、富士吉田市青少年センターにおいて「ジュニア体験楽校」が実施されました。富士吉田市内の4~6年生の小学生を対象に約10年ぶりの開催です。

初対面の友だちが多いということもあり、受付時は緊張していた子どもたちも、次第にけい込み明るく元気な笑顔を見せていた。また、日常生活の中ではあまり使わない道具の使

用や異年齢集団のグループ活動があり、子どもたちにとって大変良い経験となったようです。

初日は、「望遠鏡作り」「うどん・カレー作り」「はし・茶碗作り」「キャンプファイヤー」「天体観測」を体験。2日目は前日に作ったうどん・はし・茶碗で「流しうどん」を満喫。「体験実験」では富士山の噴火の仕組みについて学びました。



《『はたらく』って、どういうこと!?!》 都留第二中学校 **職業体験学習(インターンシップ)**



都留第二中学校(小笠原幸夫校長)では、毎年夏休みを利用して、地域事業所等で職業体験(インターンシップ)を行っています。「就業の目的や意味、喜び、苦勞、社会の厳しさについて体感的に学ぶ」とともに、「人間関係・社会形成能力・自己理解管理能力の伸長」を目的に、今年も2年生134名が、原則3日間の職業体験に参加しました。受け入れ事業所となった都留市内の青藍幼稚園・ひまわり幼稚園では、小さな子どもたちの行動に戸惑いながらも、参加した中学生がしっかり「幼稚園の先生」を勤めました。この職業体験を通して、「はたらく」ということの厳しさ、責任感、人と接するときの態度の重要性など学び、学校での机上の学習では得られない貴重な体験ができたようです。夏休み明けには、今回の活動をまとめ、今後の学校生活や将来の進路選択・職業選択にその成果を生かしていきます。



《『夏のシオジの森』を楽しもう》

シオジ森の学校 #3

シオジ森の学校(小俣正次校長)では、7月27日(日)に「シオジの森 山歩き」～雁ヶ腹摺山からシオジの森へレッツ・ゴー～を開催。当日の参加者は親子連れを含め一般参加者が13名、スタッフ6名の合計19名でした。雁ヶ腹摺山から小金沢シオジの森まで約4時間30分のトレッキングを楽しみました。

また、8月17日(日)には大月市真木の就労支援事業所「めばえ」内で、「シオジの間伐材で作ろう・木工教室」を開催。当日はスタッフを含め18名が参加しました。5月に実施した間伐と枝打ち体験で集めた木材を使って、世界にたった一つだけの作品や、シオジ材でキーホルダーやペンダント、杉の木で巣箱やスプーンを製作。間伐材でテーブルといすを作製した家族は、試行錯誤を繰り返しながらも、その出来映えに大満足の様子でした。



※※※※※※※※※※※※※※※※

※※※※※※※※※※※※※※※※

第1回南都留教育相談ネットワーク会議

より効果的な青少年支援対策に資する活動!!



南都留教育相談ネットワーク会議(会長:藤森雅恵都留児童相談所所長)は、「青少年の育成にかかわる、教師やカウンセラー、児童相談所・教育相談所の職員等が、それぞれの経験や専門性を生かしながら情報や技術を共有し合い、連携して学習会や相談活動・情報提供・研究活動を行い、公正中立な立場でのより効果的な地域の青少年支援」を目指し、平成13年度に設立されました。7月9日(水)に開催された、平成26年度第1回ネットワーク会議では会員24名が参加し今年度の活動計画等について検討。その後の研究協議では、都留児童相談所児童福祉司安留昭人先生から、「児童相談所の業務のあらまし」や都留児相管内の相談件数や相談内容、「児童相談所」と「こころの発達総合支援センター」

の業務の違いについての説明がありました。特に、児童虐待相談や、児相退所後の親子への対応等についての質疑が活発に行われました。会議終了後は、都留児童相談所の施設見学が行われ多くの会員が参加し、それぞれの施設の役割について担当者に積極的に質問していました。次回は、12月10日(水)に開催の予定です。



楽しく体を動かす!!

鳴沢保育所 「運動遊び」



近年、子どもたちの体力や運動能力低下が懸念されています。鳴沢保育所(渡辺えつ子所長)では、南都留郡保育内容研究会で取り組んでいる「幼児期に身につけたい動き」をもとに、しっかり歩く・走る・はねる・投げる等、様々な動きを保育に取り入れています。今年度は初めての試みとして、「楽しく体を動かし、体力を向上する」「発達にあった動きを楽しむ」「多様な動きを経験する」を目的に、専門家の指導を取り入れた「運動遊び」を計画。全園児を対象に「体幹を鍛えるための動き」や「用具(マット・バルーン等)を使った動き」を年間4回に分けて実施しました。

3回目の7月18日(金)は、未満児・年少児はマット運動を中心に、また年中児と年長児は運動会に向けてそれぞれ、バルーン・マット運動、組立て体操が行われました。子どもたちは、みな楽しそうに、興味を持って体を動かしていました。

年中児・年長児組は、複雑で力を必要とする動きに、専門家や先生方の助けを得ながらも、みんなで協力し取り組んでいました。渡辺先生は、「今後は子どもたちが『自ら考えて遊びを作り出せる』ことを目標とし、小学校との連携も含めてこの取り組みを続けていきたい」と話されていました。



チャレンジ THE IGO・SHOHG

都留高校 囲碁教室・将棋教室



都留高等学校(志村憲一校長)囲碁将棋部では、今年度より、小学生および中学生を対象に囲碁教室・将棋教室を始めました。これまでに6月21日(土)と7月19日(土)の2回開催。毎回10名以上の参加があり、参加者には大変好評です。今までやったことがないけれど囲碁や将棋を始めたい、あるいはもっと上達したいと考えている小・中学生に高校生が懇切丁寧な指導に当たります。

近年、囲碁・将棋を楽しむ子どもは減少しています。都留高校でもそれは例外ではありません。教室では小・中学生と高校生の連携により、囲碁や将棋のおもしろさや楽しさを少しでも小・中学生に伝えるとともに、高校生の技術向上にも役立てたいと考えています。

約2時間の教室ですが、参加費は無料です。興味のある方はふるってご参加ください。

今後の開催予定日

9月13日(土)・10月18日(土)・12月20日(土)・1月10日(土)・2月14日(土)

問い合わせ先

都留高校 囲碁将棋部顧問 米山俊広

0555-22-3125 Fax 0555-22-0902 E-mail yonetosi@kai.ed.jp



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841